

1051142

Rec'd PCT/PTO 15 OCT 2004

PCT/JP 03/04675

日本国特許庁

10/511792

JAPAN PATENT OFFICE

14.04.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 4月17日

出願番号

Application Number:

特願2002-115404

[ST.10/C]:

[JP2002-115404]

出願人

Applicant(s):

空水光株式会社

REC'D 20 JUN 2003

WIPO

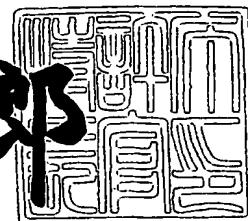
PCT

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 6月 2日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3037129

【書類名】 特許願

【整理番号】 P14039

【提出日】 平成14年 4月17日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 A61N 5/00

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都江東区南砂 1-5-30-1303

    【氏名】 齋藤 秀彦

【特許出願人】

    【住所又は居所】 東京都江東区南砂 1-5-30-1303

    【氏名又は名称】 齋藤 秀彦

【代理人】

    【識別番号】 100087000

    【住所又は居所】 東京都豊島区西池袋 1-5-11-404

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 上島 淳一

    【電話番号】 03-5992-2315

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 058609

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 エネルギー放射装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 トルマリンとマイナスイオン鉱石とを混合して形成された特殊鉱石層と、

前記特殊鉱石層に積層された所定の色の色料により形成された色料層と  
を有するエネルギー放射装置。

【請求項 2】 トルマリンとマイナスイオン鉱石とを混合して形成された特殊鉱石層と、

前記特殊鉱石層に積層された所定の色の色料により形成された複数の色料層と  
を有するエネルギー放射装置。

【請求項 3】 請求項 2 に記載のエネルギー放射装置において、  
前記複数の色料層は、互いに異なる色の色料により形成されたものである  
エネルギー放射装置。

【請求項 4】 請求項 1、請求項 2 または請求項 3 のいずれか 1 項に記載の  
エネルギー放射装置において、

前記特殊鉱石層と前記色料層との間に、金またはチタンを含む中間層を形成し  
た  
エネルギー放射装置。

【請求項 5】 請求項 2、請求項 3 または請求項 4 のいずれか 1 項に記載の  
エネルギー放射装置において、

前記複数の色料層間の少なくともいずれか 1 つの間に、金またはチタンを含む  
中間層を形成した

エネルギー放射装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、エネルギー放射装置に関し、さらに詳細には、トルマリンから放射  
される電磁波やマイナスイオンなどの波動エネルギーを利用したエネルギー放射

装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【発明の背景】

従来より、トルマリンからは様々な波長の電磁波やマイナスイオンなどの波動エネルギーが放射されており、こうしたトルマリンの波動エネルギーの放射による各種の効能が知られている。

【 0 0 0 3 】

即ち、トルマリンの効能としては、例えば、生体内におけるコレステロールの凝固や血管への付着防止効果、体液を弱アルカリ性に調整する効果、遠赤外線を発生する効果、水のミネラル化、水の弱アルカリ化、水の活性化、洗浄効果、浴槽や洗面器などを汚れにくくする効果、脱臭・消臭効果、抗菌効果、鮮度保持効果などが知られている。

【 0 0 0 4 】

このため、こうしたトルマリンの効能を効率よく、かつ簡便に利用することのできる手法の提案が望まれていた。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上記したような要望に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、トルマリンの効能を効率よく、かつ簡便に利用することを可能にしたエネルギー放射装置を提供しようとするものである。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明のうち請求項 1 に記載の発明は、トルマリンとマイナスイオン鉱石とを混合して形成された特殊鉱石層と、上記特殊鉱石層に積層された所定の色の色料により形成された色料層とを有するようにしたものである。

【 0 0 0 7 】

また、本発明のうち請求項 2 に記載の発明は、トルマリンとマイナスイオン鉱石とを混合して形成された特殊鉱石層と、上記特殊鉱石層に積層された所定の色

の色料により形成された複数の色料層とを有するようにしたものである。

【0008】

上記した本発明のうち請求項1に記載の発明あるいは本発明のうち請求項2に記載の発明によれば、特殊鉱石層を構成するトルマリンおよびマイナスイオン鉱石ならびに色料層を構成する色料の色の作用によって、色料の色に応じた波長（可視光線から宇宙エネルギーの波長帯）の微弱な電磁波やマイナスイオンなどの波動エネルギー（以下、本明細書においては、「色料の色に応じた波長の微弱な電磁波やマイナスイオンなどの波動エネルギー」を「カラーエネルギー」と称する。）が放射される。

【0009】

ここで、上記複数の色料層は、本発明のうち請求項3に記載の発明のように、互いに異なる色の色料により形成することができる。

【0010】

また、本発明のうち請求項4に記載の発明のように、上記特殊鉱石層と上記色料層との間に金またはチタンを含む中間層を形成してもよいし、本発明のうち請求項5に記載の発明のように、上記複数の色料層間の少なくともいずれか1つの間に金またはチタンを含む中間層を形成してもよい。

【0011】

このように金またはチタンを含む中間層を形成すると、本発明によるエネルギー放射装置から放射されるカラーエネルギーが増幅される。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、添付の図面を参照しながら、本発明によるエネルギー放射装置の実施の形態の一例を詳細に説明する。

【0013】

図1（a）には、本発明によるエネルギー放射装置の実施の形態の一例の概念構成説明図が示されている。

【0014】

このエネルギー放射装置 1 0 は、基板 1 2 上に特殊鉱石層 1 4 を形成し、特殊鉱石層 1 4 の上面に色料層 1 6 を形成したものである。

#### 【 0 0 1 5 】

ここで、特殊鉱石層 1 4 は、トルマリンとセラミックスなどのマイナスイオン鉱石とを混合したものより形成された層である。トルマリンとマイナスイオン鉱石との混合の割合は、トルマリンとマイナスイオン鉱石とを同量としてもよいが、必ずしも両者を同量とする必要はなく、各種の用途に応じて一方を他方よりも多くするなどのように、両者の混合割合を適宜に変更するようにしてもよい。例えば、後述するように、水のミネラル化、水の弱アルカリ化あるいは水の活性化のために、エネルギー放射装置 1 0 より放射されるカラーエネルギーを水に対して照射する場合には、マイナスイオン鉱石をトルマリンよりも多く用い、また、自動車のエンジンの排気ガスの浄化のために、エネルギー放射装置 1 0 より放射されるカラーエネルギーを自動車のエンジンに吸気されるエアに対して照射する場合には、トルマリンをマイナスイオン鉱石よりも多く用いることが好ましい。

#### 【 0 0 1 6 】

また、トルマリンやマイナスイオン鉱石は、このエネルギー放射装置 1 0 が使用される地域を中心として、東方、西方、南方および北方の東西南北の各地域から産出された鉱石を混合して用いることが望ましい。なお、上記した東西南北の各地域は、日本国内における東西南北の各地域に限られることなしに、世界規模での東西南北の各地域も含まれる。即ち、エネルギー放射装置 1 0 が使用される地域が日本であるならば、例えば、東方として北米西海岸地域、西方として南欧地域、南方として大洋州地域、北方としてシベリア地域などから産出したトルマリンやマイナスイオン鉱石を用いることができる。

#### 【 0 0 1 7 】

トルマリンとマイナスイオン鉱石とにより特殊鉱石層 1 4 を形成するにあたっては、まず、トルマリンならびにマイナスイオン鉱石を粉砕して粉粒にする。次に、これらの粉粒を適宜の混合割合で混合し、それから高温（例えば、9 0 0℃である。）で焼結して固めることにより形成する。

## 【0018】

一方、色料層16は、適宜の色の色料（本明細書において「色料」とは、所定の色彩を付された媒体を意味する。）よりなる層である。ここで、色料としては、例えば、色紙や色つきのプラスチックシートなどの適宜の材料からなるものを用いることができる。

## 【0019】

なお、このエネルギー放射装置10の色料層16を構成する色料の色は単一色により形成されているものとするが、複数色が混在するように形成された色料により色料層16を構成してもよい。

## 【0020】

また、色料の色としては、赤、橙、黄、緑、青、藍、紫、白あるいは黒などの各種の色を適宜に用いることができる。エネルギー放射装置10により放射されるカラーエネルギーにより、色料層16を構成する色料の色に応じた効能を得ることができる。なお、色料層16を構成する色料の色に応じて得られるエネルギー放射装置10により放射されるカラーエネルギーにより得られる効能については、図3を参照しながら後述する。

## 【0021】

以上の構成において、エネルギー放射装置10の上面からは、特殊鉱石層14を構成するトルマリンおよびマイナスイオン鉱石ならびに色料層16を構成する色料の色の作用によって、色料の色に応じた波長（可視光線から宇宙エネルギーの波長帯）の微弱な電磁波やマイナスイオンなどの波動エネルギーたるカラーエネルギーが放射される。なお、図1（a）（b）（c）ならびに図2（a）（b）（c）においては、符号Eにより概念的にカラーエネルギーの放射を表している。

## 【0022】

こうしてエネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを対象物に対して照射することにより、対象物が植物であるならば植物の活性化を図ることができ、また、対象物が動物であるならば動物の生体活性化を図ることができ、

さらには、化学物質の原子化、水のミネラル化、水の弱アルカリ化あるいは水の活性化や自動車のエンジンの排気ガスの浄化などが可能となる。

#### 【0023】

ここで、図3には、色料層14を構成する色料の色に応じたカラーエネルギーの波長帯と、カラーエネルギーが照射される対象物が人体の場合におけるカラーエネルギーによって活性化される対象が示されている。

#### 【0024】

図3に示されているように、例えば、色料層16を構成する色料の色が赤の場合には、エネルギー放射装置10から照射されるカラーエネルギーを人体に照射することにより、人間の創造性、歓喜、活力を促進し、視覚を活性化し、心臓の働きを活性化することができる。

#### 【0025】

ところで、色料層16を構成するそれぞれの色料の元素は、例えば、酸素、水素、炭素、リジウム、カルシウム、バリウム、マンガン、鉄、クロム、ニッケル、銅、亜鉛、スロテウム、カドミウム、コバルト、マンガン、アルミニウム、チタン、ルビジウムなどを含み、滋養あるいは栄養のひとつとなっていると認められている。

#### 【0026】

色料層16を構成するそれぞれの色料は反射したとき色彩となり、それぞれの波長（4300オングストローム以上の波長帯）をもって放射される。一方、対象物となる人体や動物などの全ての物質もエネルギーを放射している。

#### 【0027】

そして、特殊鉱石層14により発生された波動エネルギーが色料層16を通過することによって、当該色料層16を構成する色料の色に応じてカラーエネルギーが放射されることになる。また、特殊鉱石層14により発生された波動エネルギーが色料層16を通過することによって、色料の補正エネルギーを増加させることができる。



## 【0028】

ここで、有機物や無機物などの全ての物質は、周波数全域の電磁波を感知する。このことは、万物が光の電磁気と光を構成する色に反応を示すことを意味している。例えば、植物は光合成を行う上で、光を必要としている。葉を通して入ってきた光エネルギーを使って、空気から取り入れた二酸化炭素と土から吸い上げた水および微量元素を結合し、自らの成長や繁殖に必要な成分を作り出している。太陽の光エネルギーは、植物の栄養分を合成するためにはなくてはならないものである。

## 【0029】

動物も太陽の光エネルギーがあたると、直接身体に影響を受ける。即ち、人体組織に化学的、物理的变化をもたらす。つまり、図4に示すように、カラーエネルギーを人間、動物がそれらを目でとらえた場合に網膜を刺激し、視床下部を通じて細胞に伝送され電子、分子、原子核を刺激する。

## 【0030】

このため、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを対象物に照射することによって、対象物の弱った細胞を元に戻す働きがあると考えられる。例えば、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを対象物に照射すると、マイナスイオンの増加、血流の改善、免疫力の向上、健康の維持、病気の予防や回復、集中力の向上などを図ることができる。

## 【0031】

以下に、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを対象物に照射することによって、カラーエネルギーが対象物に及ぼす影響について具体的に説明する。

## 【0032】

(1) エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを植物に対して照射すると、植物の基本組織細胞を活性化することができ、それによって病害虫耐性の向上、肥料吸収力向上が図られ、植物本来の姿へ移行することができる。

## 【0033】

(2) エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを食品に対して照射すると、食品の鮮度保持や発酵の促進が図られ、日持ちの向上、品質向上、生産性向上につながる。

## 【0034】

(3) 水は、身体または細胞や組織に栄養やエネルギーを運ぶ媒体として機能している。従って、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを水に対して照射し、このカラーエネルギーを照射された水を人や動物が飲むと、その人や動物の血液がサラサラになって血液の循環がスムーズになり、弱った細胞とその周辺に作用して細胞の活性化を助ける。

## 【0035】

(4) 図5に示すように、エネルギー放射装置10を自動車のエンジン100とエアクリナー102との間の吸気エアライン104に装着し、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーEを自動車のエンジン100に吸気されるエアに照射した場合には、エンジン100における燃焼速度が増大するために、エンジンからの排気ガス中の $\text{NO}_x$ 、PMなどが大幅に軽減され、燃費も向上する。図6乃至図11には、エネルギー放射装置10を吸気エアライン104に装着した自動車の走行実験のレポートが示されている。このレポートからも、エネルギー放射装置10を吸気エアライン104に装着することにより、エンジンからの排気ガス中の $\text{NO}_x$ 、PMなどが大幅に軽減し、燃費も向上していることがわかる。

## 【0036】

なお、エネルギー放射装置10は、吸気エアライン104のエンジン100の近傍に装着することが好ましい。

## 【0037】

また、図5における符号106はアルミ薄板などにより構成される反射板であり、エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーEを反射して、カラーエネルギーEを吸気エアライン104の外部へ漏らすことなく吸気エアライン104に対し照射することを可能にしている。

## 【0038】

(5) エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを臭い物質に対して照射すると、臭い発生を消滅することができ、脱臭、消臭の効果がある。

## 【0039】

(6) エネルギー放射装置10から放射されたカラーエネルギーを楽器や音楽奏でられている空間に照射すると、通常は耳に聞き取れない和声音程や各音高の音を活性化させ、その活性化された音に接した人の五感の働きや、植物の生命調和が保持される。例えば、図12に示すように、エネルギー放射装置10の色料層14の色が金色の場合には五線譜においてト音記号により示される楽曲の和声音程を活性化させ、エネルギー放射装置10の色料層14の色が赤色の場合には五線譜における下第1線にあるドの音高の音を活性化させ、エネルギー放射装置10の色料層14の色が青色の場合には五線譜における第2線にあるソの音高の音を活性化させ、エネルギー放射装置10の色料層14の色が黄色の場合には五線譜における第2間にあるラの音高の音を活性化させ、エネルギー放射装置10の色料層14の色が白色の場合には五線譜における第2間にあるラより高い音高の音を活性化させ、エネルギー放射装置10の色料層14の色が黒色の場合には五線譜における下第1線にあるドより低い音高の音を活性化させる。

## 【0040】

なお、上記した実施の形態は、以下に示す(1)乃至(5)のように変形してもよい。

## 【0041】

## (1) 第1の変形例

上記した実施の形態においては、基板12上に特殊鉱石層14を積層し、さらにその上に色料層16を積層するようにしたが、これに限られるものではないことは勿論であり、基板12を用いることなしに、単に特殊鉱石層12上に色料層16を積層するようにしてもよい。要するよう、本発明によるエネルギー放射装置は、特殊鉱石層と色料層とが積層されていればよい。

## 【0042】

## (2) 第2の変形例

上記した実施の形態においては、基板12の全面にわたって特殊鉱石層14が積層されるとともに、特殊鉱石層14の全面にわたって色料層16が積層されるようにしたが、これに限られるものではないことは勿論であり、基板12の上面の一部にのみ特殊鉱石層14が積層されてもよいし、特殊鉱石層14の上面の一部にのみ色料層16が積層されてもよい。要するに、本発明によるエネルギー放射装置は、特殊鉱石層と色料層とが一部の領域においても積層されていればよい。

## 【0043】

## (3) 第3の変形例

上記した実施の形態においては、基板12上に特殊鉱石層14を積層し、さらにその上に色料層16を一層のみ積層するようにしたが、これに限られるものではないことは勿論である。例えば、図1(b)に示すように、同色の色料よりなる複数層の色料層16を積層するようにしてもよい。また、図1(c)に示すように、それぞれ異なる色の色料よりなる複数層の色料層16, 16', 16'', 16''' を積層するようにしてもよい。

## 【0044】

## (4) 第4の変形例

上記した実施の形態ならびに上記した第3の変形例においては、特殊鉱石層14の上に色料層16を直接積層したり(図1(a)を参照する。)、色料層16の上に色料層16を直接積層したり(図1(b)を参照する。)、あるいはそれぞれ異なる色の色料よりなる複数層の色料層16, 16', 16'', 16''' をそれぞれ直接積層した(図1(c)を参照する。)。しかしながら、これに限られるものではないことは勿論である。例えば、特殊鉱石層14の上に金やチタンなどを含む中間層18を積層して当該中間層18の上に色料層16を積層したり(図1(a)に対応する図2(a)を参照する。)、色料層16の上に金やチタンなどを含む中間層18を積層して当該中間層18の上に色料層16を積層したり(図1(b)に対応する図2(b)を参照する。)、あるいはそれぞれ異なる色の色料よりなる複数層の色料層16, 16', 16'', 16''' の間

にそれぞれ金やチタンなどを含む中間層 18 をそれぞれ挟み込むようにして積層してもよい（図 1（c）に対応する図 2（c）を参照する。）。

#### 【0045】

ここで、金やチタンなどを含む中間層 18 は、例えば、金色の色紙により構成してもよいし、白色の紙に微少の金箔やチタン片を包み込むようにして構成してもよい。

#### 【0046】

このように金やチタンなどを含む中間層 18 を設けることにより、本発明によるエネルギー放射装置から放射されるカラーエネルギーが増幅される。

#### 【0047】

なお、図 2（b）に示す変形例において、金やチタンなどを含む中間層 18 は各色料層 16 の間にそれぞれ挟み込み必要はなく、何れかの色料層 16 と色料層との間に中間層 18 を一層のみ設けるようにしてもよい。同様に、図 2（c）に示す変形例において、金やチタンなどを含む中間層 18 は各色料層 16, 16', 16'', 16''' の間にそれぞれ挟み込み必要はなく、例えば、色料層 16' と色料層 16'' との間に中間層 18 を一層のみ設けるようにしてもよい。

#### 【0048】

（5）上記した実施の形態ならびに上記した（1）乃至（4）に示す第 1 の変形例乃至第 4 の変形例は、適宜に組み合わせるようにしてもよい。

#### 【0049】

#### 【発明の効果】

本発明は、以上説明したように構成されているので、トルマリンの効能を効率よく、かつ簡便に利用することを可能にしたエネルギー放射装置を提供することができるという優れた効果を奏する。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【図 1】

（a）は本発明によるエネルギー放射装置の実施の形態の一例の概念構成説明図であり、（b）ならびに（c）は第 3 の変形例の概念構成説明図である。

#### 【図 2】

(a)、(b)ならびに(c)は第4の変形例の概念構成説明図であり、図2(a)は図1(a)に対応し、図2(b)は図1(b)に対応し、図2(c)は図1(c)に対応する。

【図3】

カラーエネルギーの波長帯と感情・五臓との関係を説明するための図表である。

【図4】

カラーエネルギーの認識される経路を示す説明図である。

【図5】

エネルギー放射装置を自動車のエンジンとエアクリナーとの間の吸気エアラインに装着した状態を示す説明図である。

【図6】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図7】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図8】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図9】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図10】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図11】

エネルギー放射装置を吸気エアラインに装着した自動車の走行実験のレポートである。

【図 1 2】

カラーエネルギーによる音の調和旋律を示す説明図である。

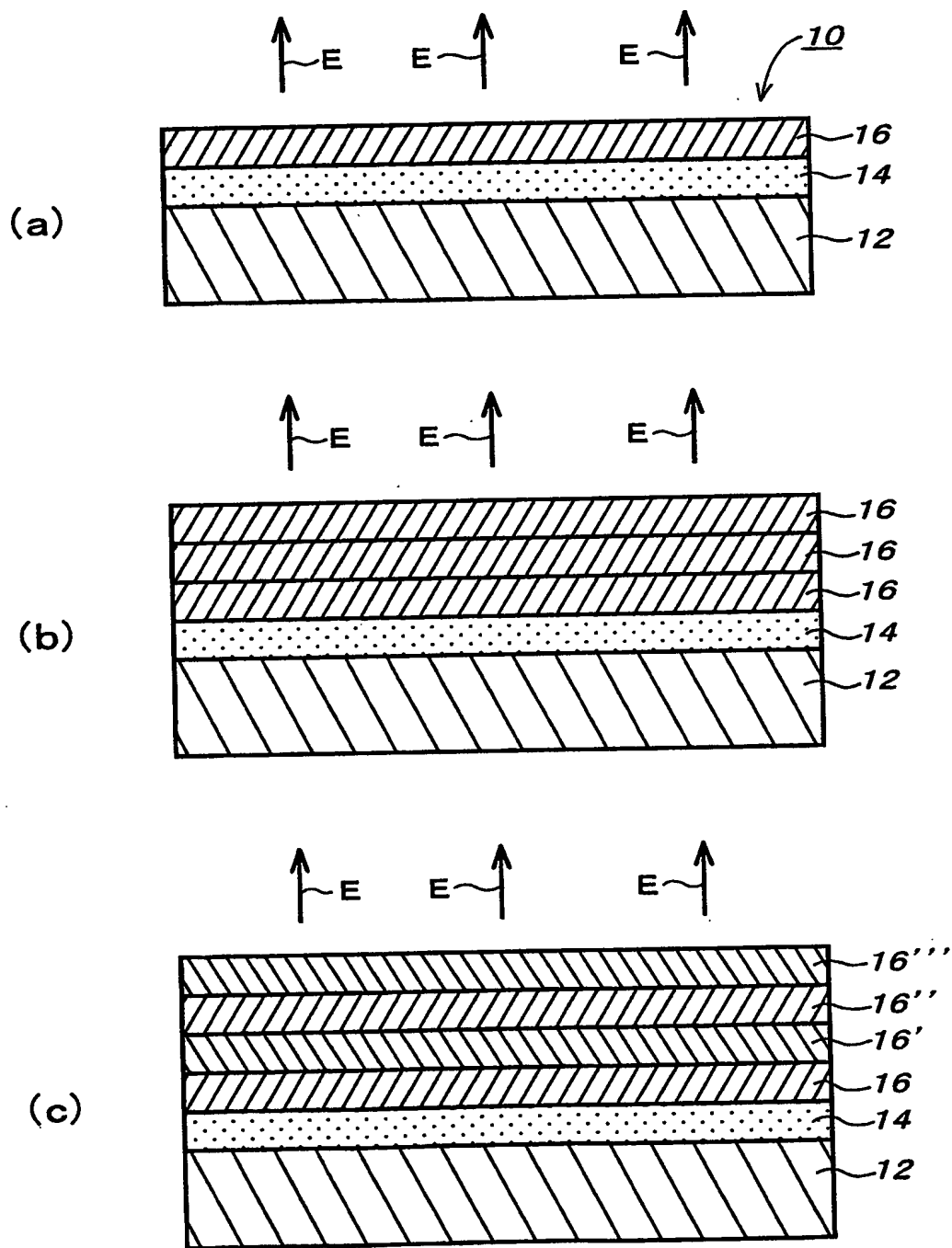
【符号の説明】

|       |           |
|-------|-----------|
| 1 0   | エネルギー放射装置 |
| 1 2   | 基板        |
| 1 4   | 特殊鉱石層     |
| 1 6   | 色料層       |
| 1 8   | 中間層       |
| 1 0 0 | エンジン      |
| 1 0 2 | エアクリナー    |
| 1 0 4 | 吸気エアライン   |
| 1 0 6 | 反射板       |
| E     | カラーエネルギー  |

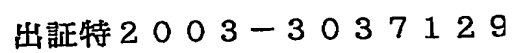
【書類名】

図面

【図 1】







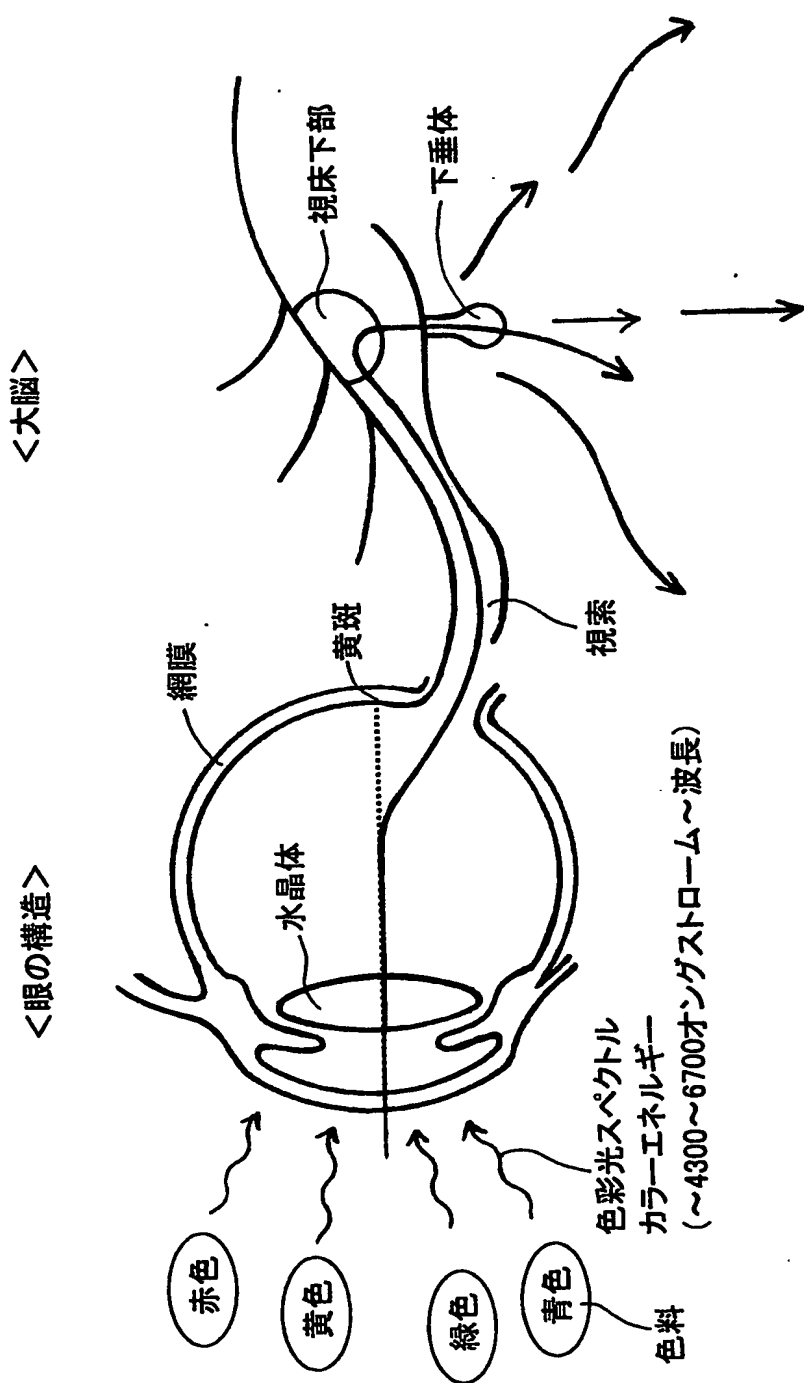
【図 3】

カラーエネルギーの波長帯と感情・五臓関係

| 色料の色 | 感情・性質            | 五感                   | 陰陽五臓 | カラーエネルギーの<br>波長帯(単位:オングストローム) |
|------|------------------|----------------------|------|-------------------------------|
| 赤    | 創造、歓喜、活力         | 視覚                   | 心    | 6000~6700~                    |
| 橙    | 喜び、健康、元気、活発      | 視覚                   |      | 5900~6000                     |
| 黄    | 快活、明朗、活動、元気      | 聴覚                   | 脾    | 5800~5900                     |
| 緑    | 若々しさ、安らぎ、くつろぎ、平静 | 嗅覚                   | 視力回復 | 5000~5500                     |
| 青    | 落ち着き、沈静、深遠       | 味覚                   | 肝    | 4700~5000                     |
| 紫    | 神秘、厳肅、優しさ        | 触覚                   |      | 4300~4600                     |
| 白    | 純粹、清々しさ          | 視覚・聴覚・臭覚・味覚<br>触覚の反射 | 肺    | 0                             |
| 黒    | 陰うつ、いかめしい        | 視覚・聴覚・臭覚・味覚<br>触覚の吸収 | 腎    | 7000~                         |

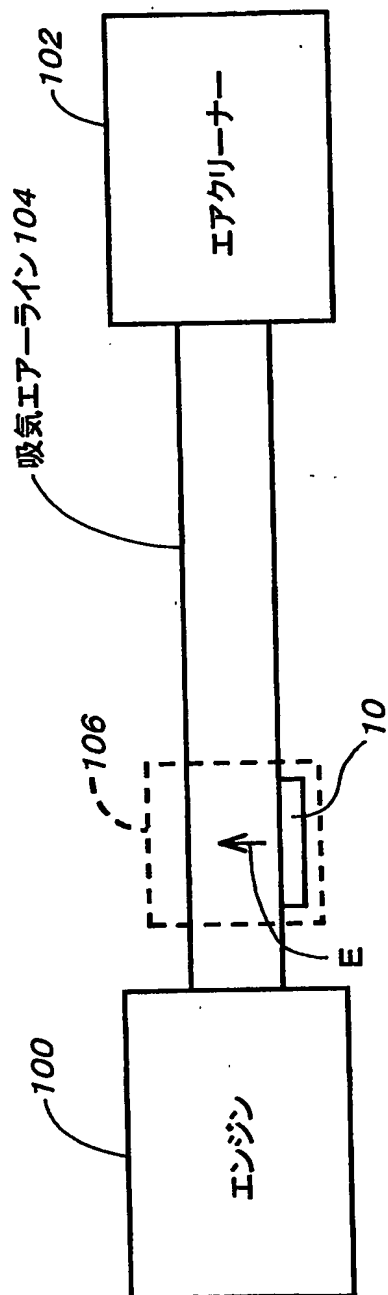
【図 4】

カラーエネルギーの認識される経路



副腎や生殖器などの器官を刺激し、ホルモンを分泌する。そして、体内の代謝も深く関っている。

【図 5】



【図 6】

アプリケーションテストレポート

|           |                       |                      |
|-----------|-----------------------|----------------------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)                 | (担当者名)               |
| 装着年月日     | H14年 1月 4日            |                      |
| 装着車輛(車種)  | ミツビシ (ガソリン) 4t車       | 燃料 ガソリン              |
| エンジン      | 7.540 cc              | PS/RPM 型式: U-FK617DD |
| 初年度登録     | 平成 7 年 8 月            | 気筒 最大出力:             |
| 装着時走行距離   | 162019 Km             |                      |
| 装着前燃費     | 5.9 Km/l              |                      |
| 走行状況      | 高速道(%)                | 一般道(100%)            |
| エネ体装着場所   | エア(吸入ライン・エア・インタークーラー) |                      |

| 報告年月日  | 走行距離   | 消費燃料   | 燃費       | 使用者側コメント(エンジン状況・黒鉛・走行性等の変化について) |
|--------|--------|--------|----------|---------------------------------|
| 1月 4 日 | 164 km | 31.8 l | 5.6 km/l | エンジンの音が車室で聴こえ、黒鉛の音が少なくなった       |
| 1. 5   | 174    | 25.0   | 4.9 km/l | 黒鉛の音が聴こえなくなった。燃費は、大分改善された。      |
| 1. 7   | 169    | 30.0   | 5.6      | エンジンの音が少なくなった。                  |
| 1. 8   | 240    | 57.2   | 5.9      | "                               |
| 1. 9   | 192    | 25.0   | 5.48     | " 大分改善、燃費がよい                    |
| 1. 10  | 243    | 58.0   | 5.9      | "                               |
| 1. 11  | 329    | 58.0   | 5.67     | エンジンでマフラーに当って見たか、黒煙とススが出ていない    |
| 1. 12  | 323    | 48.0   | 6.7      | "                               |
| 1. 14  | 188    | 36.0   | 5.2      | "                               |
| 1. 15  | 336    | 55.0   | 6.1      | "                               |

【図 7】

アプリケーションテストレポート

|           |                    |           |            |
|-----------|--------------------|-----------|------------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)              | (担当者名)    |            |
| 装着年月日     | 4/14/14            |           |            |
| 装着車両(車種)  | 370E2 (470) 470    | 燃料        | ガソリン       |
| エンジン      | 7540 CC            | 気筒        | 6          |
| 初年度登録     | 平成 7 年 8 月         | PS/       | RPM        |
| 装着時走行距離   | 162019 - Km        | 型式:       | U-FK 64700 |
| 装着前燃費     | 5.9 Km/l           |           |            |
| 走行状況      | 高速道(%)             | 一般道(100%) |            |
| エネ体装着場所   | エアで吸入ライン・エア・インタークー |           |            |

| 報告年月日 | 走行距離   | 消費燃料 | 燃費       | 使用者側コメント(エンジン・状況・黒鉛・走行性等の変化について) |
|-------|--------|------|----------|----------------------------------|
| 1月16日 | 330 km | 57   | 5.7 km/l | 黒鉛を多く消耗しているため、黒鉛を交換する。           |
| 1.17  | 340    | 59.5 | 5.7      | "                                |
| 1.18  | 330    | 55.0 | 6.0      | "                                |
| 1.19  | 329    | 60.0 | 5.4      | "                                |
| 1.21  | 330    | 58.5 | 5.9      | "                                |
| 1.22  | 280    | 49   | 5.7      | "                                |
| 1.23  | 232    | 37   | 6.2      | "                                |
| 1.24  | 279    | 51   | 5.4      | "                                |
| 1.25  | 217    | 36   | 6.0      | "                                |
| 1.26  | 274    | 46   | 5.9      | "                                |

【図 8】

アプリケーションテストレポート

|           |                 |                                 |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)           | (担当者名)                          |
| 装着年月日     | 平成 9 年 8 月 4 日  |                                 |
| 装着車輛(車種)  | 370cc (ターボ) 4c  | 燃料 ガソリン                         |
| エンジン      | 7.5-40 cc       | 気筒 最大出力: PS/ RPM 型式: U-FK-617DD |
| 初年度登録     | 平成 9 年 8 月      |                                 |
| 装着時走行距離   | 162,019 Km      |                                 |
| 装着前燃費     | 5.9 Km/l        |                                 |
| 走行状況      | 高速道( %)         | 一般道(60 %)                       |
| エネ体装着場所   | エア吸入ライン・エアインテーク |                                 |

| 報告年月日     | 走行距離<br>km | 消費燃料<br>l | 燃費<br>Km/l | 使用者側コメント(エンジン状況・黒鉛・走行性等の変化について)               |
|-----------|------------|-----------|------------|---|
| 1月28日     | 297        | 46        | 6.4        | 定車での走行  |
| 2.1       | 324        | 48        | 6.7        |   |
| 2.6       | 162        | 28        | 5.78       |   |
| 2.7       | 191        | 30        | 6.3        | 定車での走行  |
| 2.9       | 331        | 61.5      | 5.4        | 中距離で、味如多く、燃費が悪い                               |
| 2.14      | 330        | 59        | 5.6        |   |
| 2.16      | 257        | 44.5      | 5.7        |   |
| 2.18~21日  | 332        | 59        | 5.6        |   |
| 2.21日~27日 | 281        | 45        | 6.1        | 0.1kg/gス前減エネ体差取り付け20g、エネ体高に静になったと意味がバラバラになった。 |
| 2.28 1/2  | 253        | 39        | 6.4        | 0.1kg/gが少なくなった。                               |

【図 9】

アプリケーションテストレポート

|           |                   |  |          |       |        |     |            |       |
|-----------|-------------------|--|----------|-------|--------|-----|------------|-------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)             |  |          |       | (担当者名) |     |            |       |
| 装着年月日     | 14年1月13日          |  |          |       |        |     |            |       |
| 装着車輛(車種)  | マツダ ボボ            |  | 燃料       | ガソリン  | ・      |     |            | ディーゼル |
| エンジン      | 2000 CC           |  | 気筒       | 最大出力: | PS/    | RPM | 型式:Q-SSF8W |       |
| 初年度登録     | 平成2年4月            |  |          |       |        |     |            |       |
| 装着時走行距離   | 136257 Km         |  |          |       |        |     |            |       |
| 装着前燃費     | 19.5 Km/l         |  |          |       |        |     |            |       |
| 走行状況      | 高速道( %)           |  | 一般道(60%) |       |        |     |            |       |
| エネ体装着場所   | エア-吸入ライン・エア・インテーク |  |          |       |        |     |            |       |

| 報告年月日  | 走行距離   | 消費燃料   | 燃費        | 使用者側コメント(エンジン状況・黒鉛・走行性等の変化について)                          |
|--------|--------|--------|-----------|--|
| 1/13 日 | 366 km | 31.4 l | 11.6 km/l | エンジン音が軽快な、黒い煙りとススが少なくなつた。以前は黒い煙りが多かったです。                 |
| 1/15   | 15 "   |        |           | 加減速で、アクセルに力が入り、踏む時に特に出ている。音が軽快、エンジン音が分、アイドル回転が状態でも燃費がよい。 |
| 1/16   | 15 "   |        |           | 古い車で燃費が悪い、エンジン音が高いように感じたが、スグな音にあり、運転にいても、エンジンが余りなくなつた。   |
| 1/21   | 14 "   |        |           |  |
| 1/22   | 15 "   |        |           |  |
| 1/23   | 14 "   |        |           |  |



【図10】

アプリケーションテストレポート

|           |                   |        |     |      |             |
|-----------|-------------------|--------|-----|------|-------------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)             | (担当者名) |     |      |             |
| 装着年月日     | 414年1月13日         |        |     |      |             |
| 装着車輛(車種)  | 7000 CC           |        | 燃料  | ガソリン | デゼル         |
| エンジン      | 2000 CC           |        | PS/ | RPM  | 型式: Q-SJF8W |
| 初年度登録     | 平成2年4月            |        |     |      |             |
| 装着時走行距離   | 136257 Km         |        |     |      |             |
| 装着前燃費     | 10.5 Km/l%        |        |     |      |             |
| 走行状況      | 高速道(10%) 一般道(90%) |        |     |      |             |
| エネ体装着場所   | エア-吸入ライン・エアフィルター  |        |     |      |             |

| 報告年月日 | 走行距離   | 消費燃料 | 燃費    | 使用者側コメント(エンジン状況・黒鉛・走行性等の変化について)         |
|-------|--------|------|-------|---|
| 2月4日  | 34 km  | %    | km/l% |   |
| 2.5   | 15     |      |       | 走行通動で走るに数減少なく、特に1月~2月は入り大急の急路面凍結で、車加スリッ |
| 2.6   | 15     |      |       | 10も下り思ふに走れなくなり、エンジンが状態                  |
| 2.7   | 15     |      |       | 2.6燃費が悪い。しかし黒鉛が加出していたが今                 |
| 2.8   | 16     |      |       | では白煙、煙りに存在。エンジン音が静かになった。                |
| 2.9   | 15     |      |       | 排気加スル量増加し軽くなった。                         |
| 2.11  | 62     |      |       | 1.11燃費が悪く、加速感が悪くなった。今は良く、長              |
| 2.13  | 33     |      |       | い登り坂でもスムーズに走れなくなり、走らざるよう                |
| 2.15  | 30     |      |       | になった。                                   |
| 2.17  | 186321 | 42.2 | 7.6   |   |

1/13日~2/17日まで  
の状況

高速

【図 1 1】

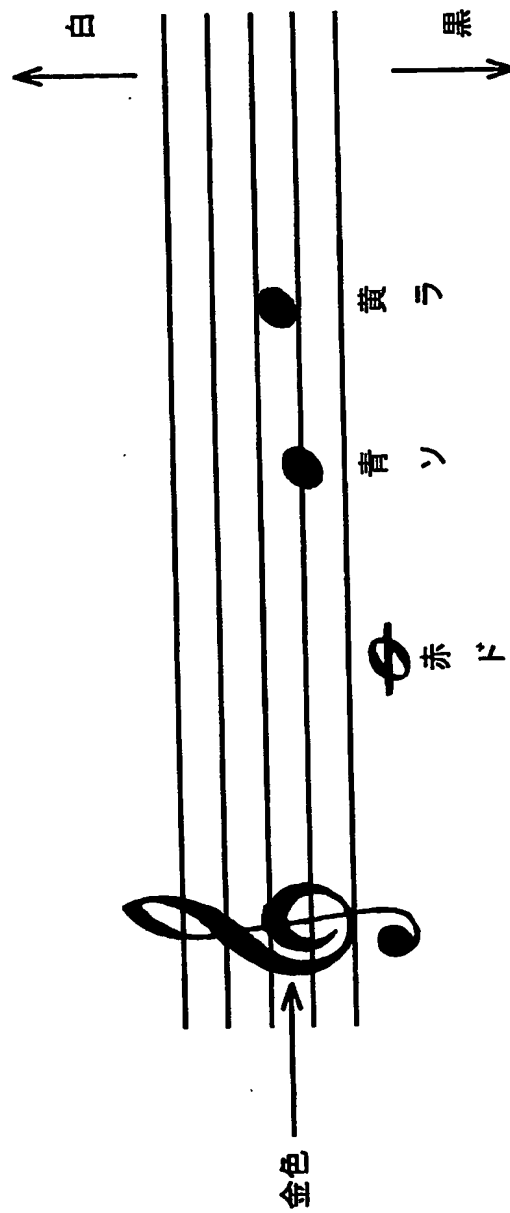
アブリケーションテストレポート

|           |                   |             |        |       |
|-----------|-------------------|-------------|--------|-------|
| テスト実施事業所名 | (会社名)             |             | (担当者名) |       |
| 装着年月日     | 4/14 年 1月 15日     |             |        |       |
| 装着車輛(車種)  | エンジン              | 燃料          | ガソリン   | ディーゼル |
| エンジン      | 2000 CC           | 気筒 最大出力:    | PS/    | RPM   |
| 初年度登録     | 平成 2 年 4 月        |             |        |       |
| 装着時走行距離   | 136277 Km         |             |        |       |
| 装着前燃費     | 19.5 Km/l%        |             |        |       |
| 走行状況      | 高速道 ( % )         | 一般道 (100 %) |        |       |
| エネ体装着場所   | エア-吸入ライン・エア-フィルター |             |        |       |

| 報告年月日  | 走行距離  | 消費燃料 | 燃費    | 使用音側コメント(エンジン状況・黒鉛・走行性等の変化について) |
|--------|-------|------|-------|---------------------------------|
| 1月24 日 | 15 km | %    | km/l% | エンジンをはけたと型に、室内の温度               |
| 1.25   | 26    |      |       | 如、早く暖かくなったように、霜が解けると            |
| 1.26   | 15    |      |       | 17分(排気ガス削減工率体)を取り付けを為す          |
| 1.28   | 17    |      |       | 解早いのと、汚汚暗くなつてから自家用車に乗           |
| 1.29   | 15    |      |       | 右側、フィルターが余り取れなり。                |
| 1.30   | 15    |      |       |                                 |
| 1.31   | 15    |      |       |                                 |
| 2.1    | 17    |      |       | 大雪でマフラーの排気口以上積り、エンジン            |
| 2.2    | 15    |      |       | は5-6分間かけたが、雪がとけた場所を見て           |
| 2.3    | 2/327 | 39.2 | 8.0   | モスガシ以前より少ない。                    |

【図 12】

カラーエネルギーによる音の調和旋律



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 トルマリンの効能を効率よく、かつ簡便に利用することを可能にしたエネルギー放射装置を提供する。

【解決手段】 トルマリンとセラミックなどのマイナスイオン鉱石とを混合して特殊鉱石層 1 4 を形成し、この特殊鉱石層 1 4 の上に所定の色の色料により形成された色料層 1 6 を積層する。色料層 1 6 は複数層積層してもよし、また、特殊鉱石層 1 4 と色料層 1 6 との間や色料層 1 6 同士の間、金またはチタンを含む中間層 1 8 を形成するようにしてもよい。

【選択図】 図 1

【書類名】 出願人名義変更届

【提出日】 平成15年 3月31日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【事件の表示】

    【出願番号】 特願2002-115404

【承継人】

    【住所又は居所】 東京都中央区日本橋馬喰町 1 - 3 - 4

    【氏名又は名称】 空水光株式会社

【承継人代理人】

    【識別番号】 100087000

    【住所又は居所】 東京都豊島区西池袋 1 - 5 - 1 1 - 4 0 4

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 上島 淳一

    【電話番号】 03-5992-2315

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 058609

    【納付金額】 4,200円

【提出物件の目録】

    【物件名】 委任状 1

    【援用の表示】 平成 1 5 年 3 月 3 1 日付け提出の包括委任状を援用する

    。

【プルーフの要否】 要

認定・付加情報

|         |               |
|---------|---------------|
| 特許出願の番号 | 特願2002-115404 |
| 受付番号    | 50300524748   |
| 書類名     | 出願人名義変更届      |
| 担当官     | 駒崎 利徳 8640    |
| 作成日     | 平成15年 5月12日   |

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】

503116811

【住所又は居所】

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-4

【氏名又は名称】

空水光株式会社

【承継人代理人】

申請人

【識別番号】

100087000

【住所又は居所】

東京都豊島区西池袋1-5-11-404 上島

国際特許商標事務所

【氏名又は名称】

上島 淳一

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[596081164]

1. 変更年月日 1996年 5月 1日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都江東区南砂1丁目5番30-1303号

氏 名 齋藤 秀彦

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[503116811]

1. 変更年月日

2003年 3月31日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-4

氏 名

空水光株式会社